

暖地型牧草草種組合せに関する試験

野口 義之・武 富 功
(福岡県種畜場)

NOGUCHI, Y. and TAKETOMI, I.
Studies on Mixture-sowing of Tropical Grasses

暖地型牧草バヒアグラス、ダリスグラスは初期生育が遅く、雑草との競合もあり播種当年の収量が低い。ローズグラスと混播することにより初年目の収量を補い、また、初期の雑草の影響を少なくすることの可能性について検討した。

I. 試験方法

(1) 草種組合せおよび混播割合

		バヒアグラス (B)	ダリスグラス (D)	ローズグラス (R)
単播	B	3(kg/10 a)		
	D		3	
	R			1.5
混播	BR	2		0.5
	DR		2	0.5
	BD	1.5	1.5	
	BDR	1	1	0.5

(2) 播種 46年6月1日に播種し、次年度以降ローズグラスは5月25日播種。

(3) 施肥は N, P₂O₅, K₂O を各9kgを基肥, N, K₂O をそれぞれ40, 20kg 追肥として分施した。苦土石灰は 100kg施用, 2年目以降の基肥は各成分6kg施用。

(4) 刈取月日

	1 番草	2 番草	3 番草	4 番草	5 番草
1年目	7/26	9/ 1	10/1	11/17	
2年目	7/ 7	7/31	8/31	10/ 5	11/15
3年目	6/13	7/ 5	7/31	9/ 4	11/ 6

II. 結果および考察

(1)草丈 1年次草丈はバヒアグラスは混播により各刈取とも影響を強く受け、ダリスグラスは2番草までは低い。ローズグラスの衰退に伴い良好となる。2年次以降混播による影響は殆んどなくなる。

(2)茎数 1年次茎数はバヒア、ダリスともにローズグラスとの混播により減少するが、10月中旬以降ローズグラスの衰退に伴い、茎数は増加し株張りは良好となる。

(3)草量および草種割合 各年次ともローズグラス単播

表 1 草量および草種割合

草種	1 年		2 年		3 年		合 計			
	収量	牧草	収量	牧草	収量	牧草	収量	牧草		
B	400	25	585	64	842	70	1,827	58		
D	420	65	680	84	920	81	2,020	79		
R	470	90	750	86	918	85	2,138	86		
BR	B	430	R	5	620	58	807	70	1,857	51
DR	D	440	R	15	630	80	851	73	1,921	62
BD	B	430	D	10	620	25	870	23	1,920	21
BDR	B	460	D	5	702	16	793	16	1,955	13
	R	60		60	71	—	—	—	53	14

表 2 草種の競合 (a)

		バヒアグラス	ダリスグラス
		kg	kg
単播(A)		959	1,317
ローズ混(B)		926	1,123
混播(C)		356	1,039
混播+ローズ(D)		236	939
B/A		97 %	85 %
C/A		37	79
D/A		25	71

区が多収であるが、2年次以降混播区の生育は良好となり、単播区に比較すると劣るが、かなりの収量が得られた。ローズ混播による効果が認められる。

(4)草種の競合 2~3年次の収量から草種の競合性をみるとバヒアグラスはダリスグラス混播の影響を強く受けるがローズグラスによる影響は小さい。ダリスグラスは競合性は高いがローズグラスによる影響は大きい。

III. 総 括

永年性牧草バヒアグラス、ダリスグラスと1年生ローズグラスの混播体系について検討した結果、バヒアグラスについては初年目の増収効果、植生からみてダリスグラスとの混播は可能である。ダリスグラスは混播による有利性は少く、さらに播種割合などについての検討が必要であろう。